

国分寺市立小学校知的障害特別支援学級設置等検討委員会（第1回） 要点記録

実施日時	令和5年5月25日（木）午後2時30分から午後4時15分まで
会場	国分寺市立教育センターひかりプラザ 203・204号室
欠席者	1名
会次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育委員会あいさつ</li> <li>2 国分寺市立小学校知的障害特別支援学級設置等検討委員会について</li> <li>3 委員への委嘱状配布</li> <li>4 自己紹介</li> <li>5 委員長及び副委員長の選出</li> <li>6 国分寺市における特別支援教育の現状と今後の方向性について</li> <li>7 協議</li> </ol>

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育長あいさつ</li> <li>2 国分寺市立小学校知的障害特別支援学級設置等検討委員会について</li> <li>3 委員への委嘱状交付</li> <li>4 自己紹介（所属・氏名）</li> <li>5 委員長・副委員長の選任…半澤委員を委員長に推薦。（一同賛成） 柿崎委員を副委員長に推薦。（一同賛成）</li> <li>6 国分寺市における特別支援教育の現状と今後の方向性について</li> <li>7 協議             <ul style="list-style-type: none"> <li>○検討事項の確認について                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本委員会における検討事項は、学級の新設，または学区域の調整である。今後のことも含めて考えていくときに，どういう学級の在り方，児童の増加にどのように対応したらよいかという2点の対応について限定して検討をしていきたいと思う。児童数を視点に，現状の課題について各委員から意見を伺う。</li> <li>→知的障害特別支援学級の最大のメリットは，一人一人にきめ細かな指導ができるということで，細かなところにまで目を向けられることであると考え。児童数が多いということで，気を付けてはいるものの，もしかしたら行き届かないところがあるかもしれない。</li> <li>→特別支援学級は，異学年集団の活動のよさもあると思う。6年生が1年生のお世話をしたり，お手本になったりする。分かれて活動すると，そのよさも減ってしまうと思う。</li> <li>→一つの教室，グループで，少人数で個々に応じた学習というの進めていく必要がある。そのためには教室が必要だが，学区域を変更して，別の学校に学区域変更をして児童が入ると，入った先の学校の児童数が増え，明らかに教室は足りないと思う。学区域変更というよりは学級を新設して，教室を確保するのが一番よいと考える。</li> <li>→児童は，スクールバスを利用して，いろいろな地域から登校している。自分の住んでいる地域ではないところへ登校している児童もいる。自分の家から学校まで歩く経験をした方がよい。特別支援学級で43人という人数は多く，学級を新設した方がよいと思う。</li> <li>→通学について，スクールバスの利用は，朝が早く，バスに揺られるだけでもすごく疲れる。それで学校にやっと着いて，そこから1日が始まると，体力的にも大変だと思う。家の近くの学校に通えて，通学途中に近所の人に声をかけたり，近所の人にも見守っていただいたりして学校に行けていることが本当に幸せだと思う。もし可能であれば，学区を小さくし，何か工夫することで，子どもがますます通いやすい学校になるとよいと</li> </ul> </li> </ul> </li> </ol>
---

思う。

→学区を変えることも一つの案かもしれないが、やっぱり増設というところが、ハード面もソフト面も、あと登校という視点として見た場合も、考えてもよいと思う。国分寺市の特別支援教育を充実させるためには、人員も含めて構造化していくことが非常に大切ではないかと思う。

→学級を新たに作るのであれば、その部分の施設、設備的なもの、環境も含めて、よい環境を作っていく必要がある。新しいところだけがうまくいけばいいというわけではなく、国分寺市の教育が全体的に同様の環境にしていくという考えを踏まえると、そのような調整を含めて検討していかなければならないかと思う。

- ・本委員会は、あくまでも教育委員会に最終的に意見を述べることになっている。増築であったり、新設であったり、学区域変更という意見を本委員会でまとめて、教育委員会に報告をする。検討委員会の2回目に実際に学校の様子を見て、もう少し焦点なり項目を整理して、こういうふうなことができる、こういうふうな条件で作ってもらいたいとか、いろいろ分けてもらいたいとか、それらを総意として、この委員会からの提言としてまとめていきたい。

#### ○アンケートについて

- ・実際に子どもの側から意見の聴取ができればということで、難しいとは思いますが、保護者の方も必要に応じて代弁することも踏まえて実施していく。
- ・アンケートの回答の「そう思う」、「ややそう思う」、「どちらとも言えない」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」という言い方が、子どもが分かりやすいかどうかと思う。特別支援学校の視点から考えると、例えば教室が広いと思いますかと言ったときに、とても広いと思うとか、狭いと思うとか、「広い」の反対は「狭い」とみんなが分かるだろうか。「そう思う」の「そう」って何だろうと疑問をもつと思う。
- ・アンケートの回答が5段階で微妙なところがある。「そう思う」、「ややそう思う」、「どちらとも言えない」、「あまりそう思わない」という回答は、児童ができればよいが、できない場合は保護者が代弁するという形で、選ぶことになると思う。
- ・設問の2番目の「一緒に勉強するお友達の数が多いと思いますか」というところの質問に対して、何を聞きたいかということが分からない。もう少し子どもたちが分かりやすい聞き方、目的とするものにした方がよい。教室は広いと思いますか、広いはどこを広いというのか、どれを広い、どこまでを広いと言うのかという、その解釈が難しいと思う。何が聞きたいのか目的というものをはっきりさせた方がよい。
- ・少し練り直して、再提案をしていただければということをお願いしたい。

#### ○事務連絡

第2回は、6月23日（金）13時15分～ 国分寺市立第二小学校